

コートダジュール大学
BESIGN The Sustainable Design School 交換留学
月例報告書（4月分）

鈴木 梨恵琉

学校から車で約 20 分のところにある Biot という小さな都市で行われる十字軍をテーマとした祭りに行きました。Biot に住んでいる友達が誘ってくれて、案内をしてくれました。かつて陶器・ガラス工芸で栄えたまちでもあり、可愛らしい町並みに、フランスの中で一番の腕前を表すガラス職人の賞を受賞したことがある作家のお店・アトリエ、ガラス美術館も見られます。フクロウや鷹などの鳥のショーや十字軍の服を着た人が松明を持ち、音楽とともに練り歩く姿を観覧しました。見たことのない古い楽器なども印象的でした。



今月は、修学旅行もありました。私達はフランス国内にあるコルシカ島へフェリーで行くことになりました。それぞれの学年で目的地・予算を決め、交通手段・ホテルも全て自分たちで予約します。大きなフェリーに乗り込み、一夜を明かすのはまるでタイタニック…！初めての経験にワクワクしました。大学生ながら修学旅行というのは、なかなか新鮮です。3日間すべての時間をクラスの友達と過ごせたのは貴重な思い出となり、



とても楽しかったです。少しネガティブな面に触れると、私達のクラスは 25 名もいるため、問題は様々、既に行ったことがある人や予算面・国籍の違いから行先等を決定するのにとても苦労しました。旅先でも、旅行の過ごし方や生活に対する文化の違い・他者への配慮の仕方の違いはより大きく目立ちましたが、より異文化に理解を深める機会にもなりました。

実は私には密かなお昼ご飯の時間の楽しみがあります。それはインド人の友達がインド料理を作ってきたときに「試したい？」と一口くれることです。それで結構インドのスパイシー料理が好きなのに気が付いてしまったのです。そんな中楽しみにしていたインド料理会がついに開催！手料理最高！相手の文化を尊重して、もちろん私は手を使

った食べ方を学びます。右手の五本指全てを使って綺麗にまとめ口に運ぶ…。簡単にやっているけどこれが意外と難しいのです。心地よいスパイシー、まだ余裕がある範囲内。まだ本気ではないかもしれないけど…。正直に言えば甘い米のデザートだけは日本人として受け入れがたい味だったけれど、本当に美味しかった！日本に帰ったらインドの香辛料を集めてしまいそうです。また、始めは苦戦したインドアクセントに慣れた自分にも気が付きます。先日インドの人口は世界最多になりました。これからよりインド英語が増えていく世の中になります。そんな意味でも、多様なアクセントを知ることのできる国際的な学校（学年）に来てよかったと改めて感じました。



月初めはフランスの Biot Glass に触れ、月末はイタリアの水上都市 Venezia でヴェネチアンガラス (Murano glass) を楽しむという、4月はたくさんの工芸やクラフトに触れることができ、私の本来の領域・感性を刺激する充実した一か月でした。ガラス工芸で有名な Murano 島とレースとカラフルな建物で有名な Burano 島に行きました。バスのように運航するボートで島に上陸すると、想像をはるかに超えるガラス工芸のお店の数。もはや全ての建物がそうなのではないかというくらいで、10m 進むにも一苦労です。それぞれのお店を回ると、有名な技法と組み合わせさせたそれぞれの職人のセンスなどが垣間見えます。全日雨予報だったのが、運よく晴れた空の下で見てまわることができました。夜は水面に反射するライトや町並みがとても美しかったです。

その後、オーストリアの Vienna ウィーンへ行きました。クラシックで壮大な建物が魅力的です。ご飯も美味しく、他の都市と比べ衛生的だと感じました。夜はライトアップされた建物が美しく、遅くまで観光可能です。22 時程でも大教会のストリートピアノで誰かがピアノを弾いています。ヨーロッパのバスや電車は窓がきれいではなく、良い景色を邪魔することを残念に思っていたのですが、ウィーンの窓は清掃されていて、ただ電車に乗って回るだけでも景色を楽しめました。楽器を背負う人が本当に多く、誰かの日常の風景から「音楽の街」をひしひしと感じ、個人的に素敵な場所だと感じました。